

# ◇ 鶴見川上流で見られる秋・冬の野鳥



ここでは、鶴見川上流の青葉土木事務所周辺で秋から冬に観察できたハトより大きな鳥を紹介します。秋・冬は北国や山から鳥が飛来するので観察できる種類が多く、バードウォッチングに適しています。

## ■ 水辺で見られる野鳥

### ▼サギの仲間



ゴイサギ (成鳥：左 幼鳥：右)

ダイサギ

コサギ

アオサギ

同じ白いサギでも、コサギはクチバシが黒色で足の指が黄色。ダイサギのクチバシは冬の間は黄色。

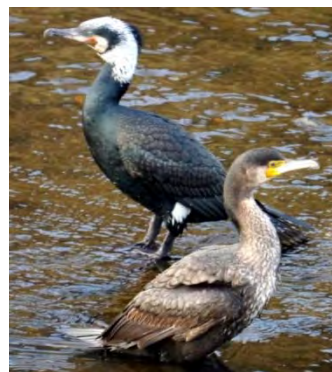
▼カモの仲間 オス・メスで見た目が変わり、きれいな色の方がオス。アイガモは人が改良した家畜です。下流では、見られるカモが変わります。



コガモ (左：オス・右：メス)  
名前コガモだが立派な大人。



アイガモ (左) カルガモ (右)  
カルガモはオスもメスも似ている。



カワウ  
(繁殖羽：上 幼鳥：下)



マガモ (左：オス・右：メス)



オカヨシガモ (下：オス・上：メス)



セグロカモメ

## ● 草地・樹上で見られる野鳥

スズメ、ハト、カラスはよく見られる野鳥として、大きさの基準になる鳥です。身近なカラスやハトは、それぞれ2種類を観察することができます。



ハシブトガラス



ハシボソガラス

ハシブトガラスはクチバシが太く、額が出っ張っている。ハシボソガラスは「ガー」と濁った声で鳴き、ハシブトは「カー」と澄んでいます。



キジバト



ドバト

キジバトは羽の縁に赤褐色のもようがある。ドバトは家畜化されたハトが放され、野生化したもので、体の色は様々です。

# ◇ 鶴見川上流で見られる秋・冬の野鳥



ハトより小さな鳥

ここでは、秋・冬に観察できたハトより小さな鳥を紹介します。  
青葉土木事務所周辺の水辺や川の草地を多くの鳥が利用しています。

## ■ 水辺で見られる野鳥



ハクセキレイ



セグロセキレイ



キセキレイ



カワセミ (オス:左 メス:右)  
クチバシの色がオスは黒一色だが、  
メスは下半分がオレンジ色と違う。

セキレイ、イソシギは、尾羽を上下に動かしながら、  
川原を歩き回るので、見つけやすく、川原でじっとして  
いるイカルチドリは目立ちません。



イソシギ



イカルチドリ

## ■ 草地・樹上で見られる野鳥

### ▼スズメと同じくらいの大きさの野鳥



スズメ



アオジ



シジュウカラ



メジロ



カワラヒワ



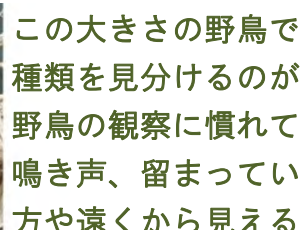
モズ



ホオジロ



カシラダカ



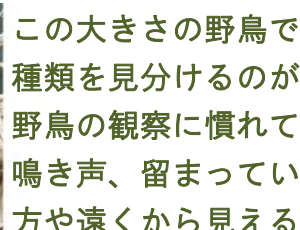
エナガ



ジョウビタキ (オス)



ジョウビタキ (メス)



この大きさの野鳥では、双眼鏡がないと  
種類を見分けるのが難しくなります。  
野鳥の観察に慣れてくると、肉眼でも  
鳴き声、留まっている時のしぐさ、飛び  
方や遠くから見える色味などである程度  
種類が分かるようになります。

見ている景色の中で、不自然に草や物が  
動いた場所に注目したり、鳴き声や物音  
などに耳を澄ますと野鳥との出会いが広  
がります。



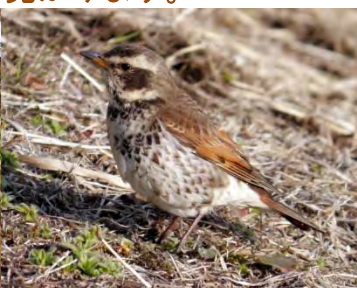
イソヒヨドリ (オス)



ヒヨドリ



ムクドリ



ツグミ



イソヒヨドリ (メス)

### ▼スズメより大きく、ハトより小さい野鳥

ヒヨドリは樹上、ムクドリやツグミは陸上で見かけます。